

「学びの変革」の更なる加速に向けて

広島県は、全国に先駆けて教育改革「広島版『学びの変革』アクション・プラン」を進めています。未来を担う子供たちを育てるために、現在取り組んでいる、広島の特徴的な教育活動を3つ紹介します。

「主体的・対話的で深い学び」の実現

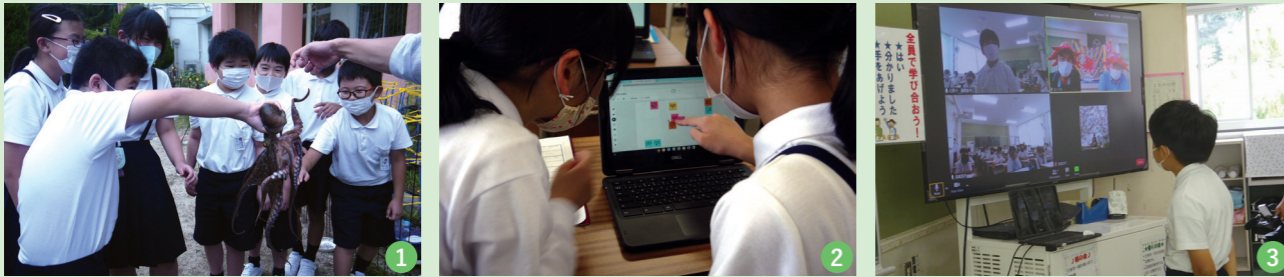
ただ聞くだけの授業とは異なり、体験する、調べる、伝える、発表するなど、自ら考え行動する力を育てる取組を進めています。先生はあくまでもファシリテート役です。仲間と話し合い、刺激を受けることで、学習意欲の向上や考え方の幅も広がります。

01

地域の伝統を守る

三原市は、瀬戸内でも有数のタコの産地です。三原市立三原小学校の第5学年では、「『三原やっさタコ』いいね！プロジェクト」と題し、地域の伝統を守るために、自分たちができることを考え実践する活動を行っています。

仮の探究課題 「三原のタコ名人になろう」



①②タコ名人になるために必要な情報を調べます。③水産教室で漁協や農林水産課の職員に児童自ら質問をし、現状を知ることができました。



「世界に認められるようなすごい伝統、すばらしい自然なんだ！」と新たな発見！

真の探究課題 「タコ漁の伝統を守っていくために自分たちにできることは何だろう？」



④自分たちが暮らす街の伝統や文化を守るために、自由な発想を持って今後必要なことを考えました。自分たちが実践できることを3つのプロジェクトに整理しました。⑤港やフェリーの中に掲示するための環境ポスターを作成しました。

環境チーム

- 三原の海の清掃活動の呼びかけ
- 紙芝居をつくり、幼稚園等で披露
- リーフレットをつくり、図書館に設置

漁業チーム

- 漁師さんに取材し市のSNSで発信
- ポスターを作成し、駅や港に掲示

T:ニチーム

- キャラクターやグッズの作成
- タコ料理レシピを三原市漁業組合と協力して発信



デジタル機器の活用

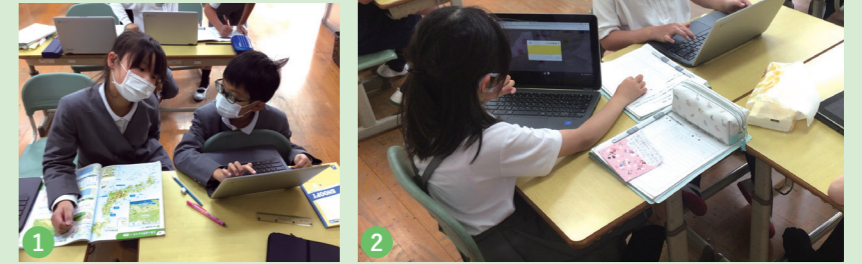
あらゆる授業において、日常的にタブレットやパソコンなどを活用できる環境を整えています。「主体的・対話的で深い学び」を一層充実するために、デジタル機器を効果的に活用します。

02

デジタル×アナログで楽しく

世羅町立甲山小学校では、「主体的に学び合う子供の育成」を目指し、デジタル機器を効果的に、かつ日常的に活用する授業づくりに取り組んでいます。

①学習内容や個々の学び方に応じて、教科書(アナログ)とタブレット(デジタル)を使い分けています。②クラウドを活用し、お互いの意見を整理して分析！



離れた場所でも繋がり広がる学びの和

リモートで、中山間地域等に位置する県立高等学校の生徒が、地域を越えて様々な先生、他校の生徒と共に探究的な学びを進める取組です。他校との交流も図れます。

①広島国泰寺高等学校から、地理Bの授業を配信。②約30キロ離れた佐伯高等学校の生徒が遠隔で授業を受けられます。大型の電子黒板を用いて、同時双方向で授業を進めています。



「個別最適な学び」の推進

児童生徒一人一人の学習進度や能力、関心等に応じて、それぞれに合った「個別最適な学び」を推進しています。児童生徒に多様な学びの場を提供し、誰一人取り残さない教育スタイルを目指しています。

03

安心できる環境づくり

県内小・中学校等21校(令和3年度)において、不登校等児童生徒のニーズに応じた支援を行うスペシャルサポートルーム(SSR)を設置。担当教員(教育相談コーディネーター)が、社会的な自立に向けて必要な力を培えるよう児童生徒を支援します。

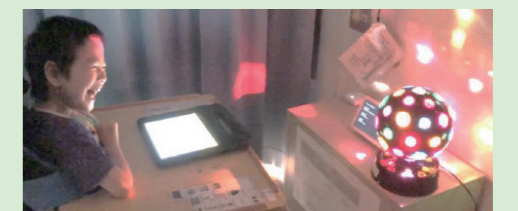


呉市立吉浦中学校

ソファやクッションを置くなど、生徒がリラックスできる雰囲気を作り出します。

個々の力と可能性を伸ばす

県立特別支援学校では、幼児児童生徒の障害の状態や発達段階に応じて、きめ細かく指導。西条特別支援学校では、デジタル機器を使い、肢体不自由のある児童生徒に「知りたい」「伝えたい」「やってみよう」を引き出す授業をしています。



タブレットやスマートスピーカーを自ら操作し、カーテンの開閉や電源のオンオフ等ができるようになりました。